

GIS エンジンに、MGEN2009 を採用したことにより、OS は、RedHat Enterprise Linux 4.7、Web サーバは Apache2.0、Web 開発アプリケーションは PHP5（若しくは Java）に限定される。尚、Apache2、PHP5、FDO（Feature Data Object）は、MGEN2009 のインストール RPM に含まれている。そのため、Linux OS にバンドルされている Apache2 のサービスは不要となり、停止する必要がある。データベースも同様に、MGEN2009 との動作保障がある、MySQL 5.0.27 を採用している。

また、開発に使用したクライアントのソフトウェア構成は、図 2の通りとなる。

MapGuide Studio 2009	PHP Eclipse 1.1.3
Internet Explorer 6/7	Eclipse 3.0.2
OS (Windows XP SP2)	

図 2 ソフトウェア構成図（クライアント）

地図の見た目を定義するには、オーサリングツールである MapGuide Studio 2009 が必要である。開発ツールとしては、PHP Eclipse を使用し、Windows クライアント側から Linux サーバ側の PHP をリモートデバッグできる環境とした。ブラウザについては、Internet Explorer6/7 以外に、サーバ側に MGEN2009 の Update1 を適用していれば、Firefox も利用可能である。

4. 地図参照構成

開発に使用した地図参照構成は、図 3の通りとなる。データソースには、SDFファイル及び MySQLテーブルを用いている。

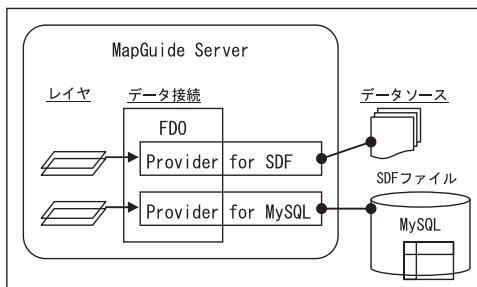


図 3 地図参照構成

5. 開発時の留意点

開発にあたり、以下の点について留意する必要がある。

5.1 文字コード

（製品仕様に UTF-8 の記載は見当たらなかったが、）MGEN2009 は、文字コードが UTF-8 しか扱えないため、OS、DB、プログラムファイル、HTTP コンテキストの全てにおいて、UTF-8 に統一した方が開発の効率がよい。

5.2 PHP → MySQL 接続

MGEN2009 のインストール RPM に含まれる PHP には、MySQL への接続オプション（`-with-mysql`）が付いていない状態でコンパイルされている。そのため、PHP アプリケーションで MySQL との DB アプリケーションを開発する際は、OSGeo.org より、MGOS 2.0.0 のソース（<http://download.osgeo.org/mapguide/releases/2.0.0/mapguide-2.0.0.tar.gz>）をダウンロードし、Oem ディレクトリに含まれている PHP をリコンパイルし、MGEN2009 の以下のディレクトリの入れ替えを行う必要がある。

